



細川茂樹 アプリ開発プロジェクト

第1回 プロジェクト始動

■ 安蔵靖志 IT・家電ジャーナリスト

0012

映画制作は世界進出できます。ITの世界では今手軽に「アプリ」で世界に発信できます。

日本の優秀な学生たちと今回、アプリ開発をして発信します！
(細川茂樹)

細川氏の呼びかけでプロジェクトが始動

2011年4月某日。俳優の細川茂樹氏の呼びかけによって、情報処理学会誌の編集長を務める公立はこだて未来大学の中島秀之学長、理事を務める神戸大学大学院工学研究科の塚本昌彦教授らが東京・御茶ノ水の情報処理学会本部に集まった。

細川氏は「現在スマートフォン向けアプリの開発を進めようとして準備しているところだが、それとは別に、ぜひ情報処理学会に協力してもらってスマートフォン向けアプリを制作したい」と語る。

すでに5つほどあるアプリのアイデアの中から1つか2つを選び、それを情報処理学会および学会のメンバとのコラボレーションによって制作できないかとのことだ。

「学生と一緒に組んで開発し、『スマートフォンのアプリを開発してみたい』という人にも興味を持てるようなものにしたい。僕のアイデアを基にしたアプリの制作をお願いし、それを無償で提供する形にしたいと思っている」(細川氏)

中島編集長からは「大学を出て企業に入社してもシステム開発ができない人も多く、経団連は高度ICT教育が必要だと主張している。細川さんから仕様をもらって制作するのではなく、学生からの提案も盛り込む形で進めていくのであれば、今の時流からも歓迎される」と提案があった。

中島編集長は共同制作にあたって「ポイントは2

つある」と語る。

「俳優・細川茂樹さんのキャラクターが作ることの面白さと、アプリの中身、どちらが欠けてもダメ。技術的にも、間口は広いがいくらでもチャレンジできる内容のものがいい」(中島編集長)

家電の取扱説明書を整理・閲覧できるアプリ

いくつかアプリの腹案を出して協議した結果、家電製品に詳しい「家電俳優」として知られる細川氏らしい「家電の取扱説明書を整理・閲覧できるアプリ」に決定した。家電製品を利用する上で誰もが一度は目にする取扱説明書だが、いざという時に見つからないことも多い。大きさもまちまちでまとめて整理するのが難しいこともあり、完成すれば多くの人が便利に使えるはずだ。

音声認識を利用して該当する型番の取扱説明書を検索する機能や、ユーザの目的やトラブルの内容に合わせて説明書の中の該当個所を表示するなど、技術的にかなり高度な機能を取り入れることもできる。対象となるユーザの間口の広さ、技術的発展の可能性の幅を検討した結果、「家電取説アプリ」に決定した。

制作にあたっては、情報処理学会の会員の中から興味のある学生を募り、細川氏や中島編集長、担当教官らと協議しながらアプリの仕様を詰めていくこととなった。

お茶の水女子大学の院生2人が参加

5月某日、プロジェクトに参加する学生が加わり、家電取説アプリの仕様に関する協議に入った。参加するのはお茶の水女子大学理学部情報科学科小口研究室所属の平井弘実さんと、同情報科学科椎尾研究



お茶の水女子大学理学部情報科学科小口研究室所属の平井弘実さん



お茶の水女子大学理学部情報科学科椎尾研究室所属の池田彩さん



お茶の水女子大学理学部情報科学科の椎尾一郎教授



アプリの仕様を説明する細川氏

⇒手前から時計回りに、神戸大学大学院工学研究科の塚本昌彦教授、公立はこだて未来大学の中島秀之学長、俳優の細川茂樹氏、アプリ開発に携わる池田彩さん、平井弘実さん、池田さんが所属する椎尾研究室の椎尾一郎教授



室所属の池田彩さんの2人。

平井さんは Android OS を用いた TCP-IP 通信システムの可視化ツールを卒業論文のテーマにしており、修士論文もそれをベースにしたものを選ぶ予定にしている。池田さんが所属する椎尾研究室ではコンピュータや家電製品のユーザインタフェースを研究しており、卒業論文では膨大なデータの中から必要な情報を選び出す方法の研究をしていたとのことだ。

最初に細川氏が、カテゴリやキーワード、音声・画像認識などを利用して取説を検索する機能、各社の Web サイトから取説をダウンロードして整理する機能、高齢者層でも手軽に使えるユーザインタフェースなど、さまざまな要求仕様を説明した。

椎尾教授は「家電製品の取説が簡単に見つかるという仕掛けは必要だと思っており、いい着目点だと思う。製品のバーコードを読み込ませると取説が出るという方向に持っていくと面白いのではないかと語る。「洗濯機や電子レンジなどのカテゴリを作

っておき、ワンタッチで取説だけでなくカスタマーセンタにも電話できると便利」と平井さん。

ただし池田さんからは「具体的な内容や機能を見ると、量が膨大でフォローしなければならないメーカーも多く、2人で手がけるのは難しい」という意見も出た。

会議ではさまざまな機能のアイデアが出されたが、高度な技術が必要とされる機能も多い。そこで、まずは製品の型番を入力して取扱説明書の PDF ファイルをダウンロードし、整理・閲覧する基本機能を制作することとなった。その上で型番までたどり着くためのさまざまなユーザインタフェース、機能をどこまで盛り込めるのか。次回は池田さん、平井さんの2人に技術的なアイデアを求める運びとなった。
(2011年11月11日受付)

安蔵靖志 yasushi@anzo.jp

IT・家電ジャーナリスト。日経BP社「日経ネットブレン」「日経トレンドネット」などを経てフリーランスに。広報学会会員。
<http://anzo.jp/>